

一橋山岳部&針葉樹会年表

1922年(大正11年)6月 ~ 2022年(令和4年)6月

(まえがき)

- 1) 通年 山岳部創部の年を第1年度とする通算年度
- 2) 年 暦年。山岳部の年度は4月1日～翌年3月31日。針葉樹会の年度は6月1日～翌年5月31日。
本誌の山岳部活動報告の年度の範囲はリーダーの交代に合わせて当年3月～翌年2月。
- 3) 事項・出来事の選定と記載スタイル
『針葉樹』、『針葉樹会報』から凡例のジャンルのものを選定し、山岳部関係を日付順に記載し、針葉樹会関係は【針葉樹会】の見出しの後段に日付順に記載した。
山行は、各年度の主要山行(原則、春・夏・冬合宿)、初登攀など特筆すべき山行、海外遠征を『針葉樹』から選定した。『針葉樹』第1～8号からの山行の選定、特記事項については倉知敬会員(昭38年卒)のご協力を得た。
『針葉樹』、『年報』は全号を記載し、『針葉樹会報』は創刊号、終刊号、特別号のみ記載した。
- 4) 人名の表記
山行メンバーは初出は姓名、再出は姓のみ(複数姓の場合は()内に名の頭1文字)。
その他は姓名表示とする。1字姓、1字名の人名は、姓と名の間に1スペース空けた。
部外者は[]で囲んだ。
- 5) 文献について
スペースの関係で、年表事項についての説明は特記事項のみとした。それを補う意味で「文献」欄の数字で検索できる別表「文献集」に出典、参考文献を出来る限り収録した。
- 5) 資料について
本年表作成に際して、会員から寄せられた山行記録・覚書等は、表末に【資料1】・・・として収録した。該当する年度にその旨注記した。
- 6) 本表の改訂について
本表の改訂(加除訂正)版は「一橋山岳会ホームページ」の『針葉樹』の「針葉樹第15号」に掲載する。

(中村 雅明)

(凡例)

- ☆☆☆ 山岳部の創部、針葉樹会の発会
- ☆☆ 山岳部室の落成、補修、改修、新部室の落成
- ☆ 山岳部、針葉樹会の会合、催し、行事
- 国内山行(夏山合宿、冬山合宿、春合宿、特別な山行)
- ◎ 初登攀、第2登、海外遠征(太字)
- 現役部員・顧問の病死、事故死
- ▲ 遭難死
- ★ 遭難事故
- 『針葉樹』、『年報』、『針葉樹会報』、名簿、会員出版物の発行、規約の発布・改正、部歌の作曲
- 追悼録、遭難報告書の発行

通年	年	事項・出来事	文献
1	1922 (大正11)	☆☆☆6.21 一橋山岳会創立(発会式) 於;神田一橋・階段式の化学教室 発起人:中川孫一、金田近二 (共に予科3)、奥野綱重(専3) 入会者:松倉栄司(予2)、吉沢一郎(予1)、五十嵐数馬(予1)、村尾金二(予1)、松木謙三(予1)	1
		○7.13~17 燕一槍ヶ岳縦走、岳沢より前穂高 ※一橋山岳部最初の山行、リーダー:金田近二、中川孫一ほか	2
		○冬 第1回スキー合宿 野沢温泉・酒屋 ※酒屋でスキー合宿を学校単位でやったのは一橋が最初	3
2	1923 (大正12)	○夏 燕一槍ヶ岳-上高地-徳本峠 村尾金二、矢作太郎ほか	
3	1924 (大正13)	○3.16~21 蔵王刈田岳、熊野岳、家形岳、一切経など 吉沢一郎、村尾、近藤恒雄ほか1名	1
4	1925	◎3.24 発哺温泉から岩菅山スキー登山	1

通年	年	事項・出来事	文献
	(大正14)	吉沢(一)、村尾、[沢柳、小栗、三富] ※積雪期に岩菅山に登頂した登山者の最も初期の記録	
		○7.5~11 小西俣の遭難 吉沢(一)、渡辺九郎、矢作 ※三伏峠から赤石岳へ向かう途中	2
		□12月『東京商科大学一橋山岳部年報 Nr. I 1925 (4-10)』発行 ※(『針葉樹』第1号) 創刊前の或る時期には「やま」という誌名にする予定だった。	3
5	1926	□5月『一橋山岳部々報』第1号 発行	1
	(大正15)	※『東京商科大学 一橋山岳部々報 -1- 25' Nov 26' Apr』(原本表紙の報名)	
		○7.3~14 東北朝日岳・野川遡行、大朝日岳から以東岳へ縦走 村尾、村瀬和四郎、吉沢(一)	2
		○7.17~25 常念乗越より槍ヶ岳北鎌尾根、槍沢より涸沢-前穂高岳北尾根 吉沢(一)、中島 潤	3
		※創立5年目の夏期登山。上記以外に、燕、烏帽子、針ノ木方面3隊、甲斐駒・北岳隊の縦走あり	
		○7.22~8.1 銀山平から只見川遡行、燧ヶ岳他登頂 松木謙三ほか1名、案内者:富永重太郎	4
		□12.16『針葉樹』第2号(1926.5~1926.10) 発行 編輯兼発行者:吉沢一郎	
6	1927	○1.6~14 渋峠より横手越え草津へスキーツアー 矢作、吉沢(一)	1
	(昭和2)	○3.21~4.1 針ノ木峠・板屋峠越え御山谷・一の越 村尾、五十嵐数馬、松木、顧問・田中薫、人夫2名	2
		※積雪期登山を初めて試みる	
		○7.10~19 塩見岳~赤石岳夏季縦走 高瀬進三、芋川稔一、案内者:堀田英美	3
		※この年の夏季縦走隊、他に後立山、薬師、白馬他6隊あり	
		○12.17~31 冬季スキー合宿 (野沢温泉・酒屋)	4
		□12.28『針葉樹』第3号(1926.11~1927.10) 発行 編輯兼発行者:吉沢一郎	
7	1928	□3.1『針葉樹』第4号(1927.11~1928.10) 発行	
	(昭和3)	編輯兼発行者:中島嘉一郎	
		○3.12~23 尾瀬スキー登山(至仏山、景鶴山、燧ヶ岳に登頂) 宇佐美敏夫、中島嘉一郎、手塚晴雄、金田一郎、磯野計蔵、他1名	1
		○6.23~7.4 宝川遡行、朝日岳・柄沢山を経て湯檜曾へ 横倉吟三郎、宇佐見、中島(嘉)、金田(一)、人夫2名	2
		※上州最奥の沢遡行と上越国境縦走を計画した野心的な企画だったが梅雨で中断、上州側に戻る。	
		○7.27~8.4 劔岳・ハツ峰 横倉、磯野、宇佐美、人夫1名	3
		○8.6~8.9 槍ヶ岳小槍 横倉(単独)	4
		※夏季縦走隊7隊、上高地キャンプ設営の中心岩峰登攀目的の上記2パーティーあり	
		◎12.21~12.28 白馬岳 高木英二、赤城鈴太郎、宇佐美、金田(一)、磯野、中島(嘉)、人夫5名	5
		※厳冬期(12月後半から2月末までを言うとする)としては初登頂	
		【針葉樹会】	
		☆4.29 野外懇親会(卒業生の初めての会合) 於調布の多摩川の河原 ※月1回如水会館で集まることになった。←針葉樹会発祥の日	6
		☆5.18 第1回例会(一橋山岳部之会) 於如水会館中集会室 ※月1回第3金曜に如水会館で集まることになった。	6
8	1929	○4.4 上州武尊山(花咲山崎より往復※)	1
	(昭和4)	吹原不二雄	
		○5.21 上州武尊山(花咲山崎より往復※) 金田(一)、中島(嘉)	2
		※上州武尊山残雪期の山行研究を志向する新機軸登山	
		○7.1~8 霞沢岳・明神岳・涸沢行 [浦松佐美太郎]、吉沢(一)(以上先輩)、金田(一)、横倉、磯野、人夫2名	3

通年	年	事項・出来事	文献
		※先輩・学生合同山行の代表例	
		【針葉樹会】	
		☆☆☆6.21 復活第1回例会 於如水会館	4
		※「針葉樹会」の名称決まる。命名者：吉沢一郎	
		◎8.5～8 剱岳東大谷左俣初登	5
		吉沢(一)、城南山岳会3名 案内者：丸田丈次郎	
		※東大谷全体の第2踏破、左俣の初登	
9	1930	○1.3～14 蒲田川右俣より飛驒乗越経て槍沢へ	1
	(昭和5)	金田(一)、磯野、中島(嘉)、手塚、人夫2	
		※厳冬の槍ヶ岳肩横断	
		○4.20 上州武尊山(花咲から武尊山を藤原へ越した)	2
		吹原ほか1名	
		※上州武尊山残雪期の山行研究を志向する新機軸登山	
		□7.1 『針葉樹』第5号(1928.11～1930.3) 発行	
		編輯兼発行者：芋川稔一	
		□11.18 『一橋山岳部々報』第2号(1930.5～1930.10) 発行	
		※『一橋山岳部報 NO. 2』(原本表紙の報名) 編輯者：増山清太郎	
		○12.24～1.6 扇沢より爺ヶ岳を経て鹿島槍ヶ岳	3
		磯野、中森長太郎、鈴木英雄、安達泰三、堀岡 清、人夫3名	
		※幸運の遭難未遂(磯野)	
		【針葉樹会】	
		□3月 針葉樹会規約施行	4
		□5月 『針葉樹会報』第1号(第1年第1号) 発行	5
		※編集：松木謙三	
10	1931	□1.23 『一橋山岳部々報』第3号(1930.11.1～1931.1.10) 発行	
	(昭和6)	※『一橋山岳部報 NO. 3』(原本表紙の報名) 編輯者：増山清太郎	
		□5.8 『一橋山岳部々報』第4号(1931.1.25～1931.4.10) 発行	
		※『一橋山岳部々報 NO. 4』(原本表紙の報名) 編輯者：小川竹夫	
		☆☆5.31 山岳部・部室落成披露	1
		□7.5 『一橋山岳部々報』第5号(1931.5.1～1931.6.14) 発行	
		※『一橋山岳部々報 NO. 5』(原本表紙の報名) 編輯者：鈴木英夫	
		★7.19 小黒部仙人尾根にて小橋謙三部員(予3)墜落重傷	2
		☆7.23 遭難事件報告会 於如水会館	
		□11.5 一橋山岳部規約改正	
		□11.25 『一橋山岳部々報』第6号(1931.6.28～11.8) 発行	
		※『一橋山岳部々報 NO. 6』(原本表紙の報名) 編輯者：大友亮蔵	
		□12.9 「一橋山岳部々歌(山讃賦)」石川強作曲	3
		・1930年頃作曲依頼、1931年春頃に完成、12月9日の「針葉樹会」で披露され部歌に認定	
		(「山讃賦」松崎武雄作詞 … 『針葉樹』第1号所収)	
		・「一橋山岳部に寄する」藤島敏作詞 … 石川強が作曲するも譜面なし	
11	1932	○1.3～12 乗鞍岳	1
	(昭和7)	鈴木(英)、丸茂平造、清水達夫、田中秀三郎、増山清太郎、堀岡、人夫1名	
		○3.17～31 魚沼駒ヶ岳と北の又川入り	2
		高見 要、鈴木(英)、増山、十合健二、人夫2名	
		※知られざる雪山に挑む	
		○7.6～9 谷川岳南面・谷川本谷遡行	3
		十合ほか1名	
		○7.22～8.16 山岳部創立十年目の夏山として、上高地にベースキャンプ(第1次、第2次、途中3日中断)が設けられ、霞沢、白馬、立山、平一針ノ木、黒部東沢、濁沢岩登り、黒部東沢、濁沢岩登り、槍平から槍穂、乗鞍・御岳などに登る。	4
		□8.1 『針葉樹』第6号 — 十周年記念号 — (1930.4～1932.3) 発行	
		編輯兼発行者：増山清太郎	
		・芋川稔一「紀文：漂泊に於ける山と人との関連」	
		※登攀志向に傾斜する前夜の山旅派の登山論議	

通年	年	事項・出来事	文献
		○12.23～30 冬期スキー合宿(野沢温泉) 部員(増山ほか5名、部員外数名)	5
12	1933	○1.1～5 神楽ヶ峰スキー登山 (昭和8) 吉沢(一)、松木、村尾、磯野、手塚、宇佐美(以上OB)、増山、堀岡 ※過渡期的厳冬期登山(旧世代)	1
		○7.14～8.2 上高地にベースキャンプが設けられ、槍・穂高縦走、霞沢三本槍、 岳川より奥穂、涸沢より奥穂、奥又白から前穂に分散山行。その前に白馬から上高地、 燕・槍・穂高-上高地縦走を行う。 ☆9.10 予科 石神井から小平へ移転	2
		○12.18～1.3 冬期スキー合宿(五色温泉) 部員(十合ほか14名)、部員外17名	
13	1934	○1.3～6 ハヶ岳・赤岳他 (昭和9) 小谷部全助、齋藤正治 ※過渡期的厳冬期登山(新世代)	1
		☆6.29 予科山岳部独立(認可) 於一橋予科会定期総会	
		○7.13～20 剣沢生活(定着) これに先立って(針ノ木峠、立山、剣行)、(後立山縦走)、(剣沢行)、(池谷遡行) が行われ、剣沢に集合した。	
		●8.28 宮川雄二郎部員(本3) 千葉県御宿海岸にて水死	
		□10.1 『針葉樹』第7号(1932.4～1934.7) 発行 編集兼発行者:堀岡 清	
		□10.20 『針葉樹会報』特別号「故宮川雄二郎君追悼号」発行	
		○11.2～18 鹿島槍ヶ岳天狗尾根 小谷部、森脇芳之、鷹野雄一	2
		○12.23～30 鹿島槍ヶ岳東尾根 小谷部、鷹野	3
14	1935	■2.15 『故宮川雄二郎君追悼録 おちば(落葉)』発行 (昭和10) ※編集兼発行者:堀岡 清	1
		○4.10～16 槍山沢より飯豊山スキー登山行 齋藤正治、林俊介、鷹野、人夫1名 ※残雪の深山幽谷の山の親しさと住む人の純朴さを味わう。	2
		○6.6～10 カクネ里より鹿島槍ヶ岳 小谷部(単独)	3
		◎6.8 北壁右ルンゼ単独初登	
		○6.19～24 北岳バットレス 小谷部、高野、森川	4
		◎6.23 第3尾根無雪期初登(小谷部、高野、森川)	
		○7.9～29 上高地天幕生活(定着) 玄文沢BCから穂高周辺の岩登り、小縦走を精力的に行う。22～26には涸沢生活 (小林重吉他4名)も。部員23名、先輩2名、ほか8名、総員33名参加。 小谷部は錫杖岳・烏帽子岩を齋藤正治と登っている。	5
		○7.17～21 團衛谷を下り天上沢を上る 吉沢(一)、近藤恒雄(以上OB)、望月達夫ほか1名、案内者:下川隆夫 ※峻谷の初下降	6
		□11.25 『針葉樹』第8号(1934.7～1935.8) 発行 編集兼発行者:林 俊介	7
		・「雑記:秩父三題 1、峠(岩崎利一) 2、沢(森川眞三郎)、3、原生林(柿原謙一)」	8
		※「針葉樹会」の由縁たる奥秩父の峠、沢、原生林を3人が綴る ・「記録:奥秩父山小舎生活 森川眞三郎 一創部以来親しんだ奥秩山行の一例	9
		☆10月上旬 部室備付の部日誌が置かれる(予科部室にも)。	
		○10.26～11.3 大樺小舎生活・北岳バットレス(第4、5、6、7尾根) 村尾、小谷部、望月(達)、小林(重)、和田栄達、佐々木 誠、岩崎利一、ほか2名、人夫1名	10
		◎10.30 第4尾根マッチ箱直登ルート初登 村尾、望月(達)、小林(重)	11

通年	年	事項・出来事	文献
		★10.31 鳳凰山地蔵岳オベリスク登攀で森川眞三郎部員(予3)遭難 10.26発、林ほか11名+人夫1名で大樺小舎秋季合宿に向かう途中に発生	12
		☆12.5~7 予科山岳部主催山岳写真展覧会 於小平会議室	
		○12.7~16 北岳バットレス・第3、5尾根 小谷部、高野、小林(重)	13
		◎12.13 第3尾根積雪期初登	
15	1936	○3.4~11 野呂川遡行・仙丈岳 (昭和11) 小谷部(単独)	1
		●3.22 湯田坂 哲部員(予3) 病没	
		○5.27~6.2 鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁(北稜) 小谷部、森川	2
		○7.8~23 穂高涸沢合宿 林ほか21名	3
		※それまで縦走してから集合し定着合宿としていたのを、先に全員合宿で統制ある行動、 解散後自由行動とした。	
		○9.2~10 大樺小舎生活・北岳バットレス(第1、4、5尾根) ◎9.8 第1尾根無雪期初登(小谷部、森川)	4
		●10.21 関根 修部員(専2) 病没	5
		○12.23~1.10 北岳バットレス(第1、4尾根) 小谷部、森川、望月(達)、大塚 武、日江井正巳	6
	1937	◎1.2 第1尾根積雪期初登(小谷部、森川) ◎1.5 第4尾根積雪期初登(小谷部、森川)	
		【針葉樹会】	
		■11.15 『故中島嘉一郎君追悼録 菰野菊』発行 昭和10年2月27日病没 ※編輯兼発行者:金田一郎	7
16	1937	☆1.25~26 予科山岳部主催山岳写真展覧会 於小平会議室 (昭和12) ○3.14~4.1 遠見尾根より鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁及び五竜岳 小谷部、森川 第1次サポート:小林(重)、鷲崎雄四郎、宮城恭一 第2次サポート:森脇、大塚	1
		◎3.28~29 荒沢奥壁北稜積雪期初登(小谷部、森川)	
		○5.24~29 甲斐駒摩利支南稜 大塚、日江井	2
		※予科部員による先駆的登攀	
		○7.9~22 劔沢合宿 小谷部ほか15名、先輩1名	3
		○7.22~27 夏山縦走:劔沢より薬師、槍へ 森川ほか9名	4
		○7.22~27 夏山縦走:(劔沢より)南沢より烏帽子、槍へ 原鉄三郎、岩崎	5
		○7.22~26 夏山縦走:(劔沢より)針の木越え、大滝山越え 鷲崎、榎本直司	6
		○7.25~8.6 夏山定着:上高地天幕生活 望月(達)ほか16名 ・8.1~5 奥又白生活 小谷部ほか4名	7
		□7.25 『針葉樹』第9号(1935.9~1937.3) 発行 編輯兼発行者:望月 達夫	
		○10.19~26 奥又白生活 小谷部ほか4名	8
		☆11.13 一橋山岳部創立15周年記念会 於如水会館	
		○12.17~31 徳沢小舎生活 小谷部ほか13名	9
		★12.20 松高ルンゼ登攀中雪崩に遭い日江井正巳部員(予3)負傷	
		【針葉樹会】	
		☆11.13 山岳部創立10周年記念晩餐会 於如水会館日本間 OB18名、現役18名	10
17	1938	○1.1~7 奥又白幕営(徳沢合宿に引続き) 小谷部ほか4名 (昭和13) ○3.16~20 前穂高岳東壁 小谷部、森川、船本文治	1
		◎3.17 前穂高岳東壁・北壁ルート積雪期初登(森川、船本)	2
		※兩人、手足凍傷に冒される。	
		☆6.12 予科山岳部展覧会	
		○7.13~25 劔沢合宿	3

通年	年	事項・出来事	文献
		佐々木ほか10名	
18	1939	○3.12～30 岳川谷生活	1
	(昭和14)	船本ほか4名	
		○9.3～10 北岳バットレス(第1、3、4尾根)	2
		大塚、山田亮三、根本 大、高野秀男	
		◎9月 第1尾根無雪期第2登(山田(亮)、根本)	
		□9.15 『針葉樹』第10号(1937.4～1939.6) 発行	
		※編輯兼発行者:岩崎利一 船本文治 大塚 武 日江井正巳 山田亮三	
		○12.18～28 北穂高岳滝谷第4尾根	
		大塚、山田(亮)、佐藤政雄、根本	
		◎12.23～24 第4尾根厳冬期初登(大塚、山田(亮))	3
19	1940	○3.10～27 横尾本谷より槍ヶ岳	1
	(昭和15)	山田(亮)、根本、高野(途中下山)	
		※当初、小槍登攀を目指したが、悪天候続き槍本峰登頂に終わる。	
		◎5月 鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁南稜積雪期第2登	2
		山田(亮)、佐藤(政)	
		○7.13～21 夏山縦走:針ノ木峠から五色ヶ原、(薬師、黒部源流を経て上高地)	
		▲7.18 北アルプス奥木挽山で友田純一部員(予1)遭難死	3
		○8月 穂高・涸沢岩登り	
		山田(亮)、高野、松下順吉、小林茂雄、佐野茂雄、清水一郎、鈴木 肇ほか	
		□11.30 『針葉樹会報』第91号「友田純一郎遭難顛末」発行	
20	1941	○3.15～25 遠見尾根天幕生活	1
	(昭和16)	根本ほか7名、OB1名	
		※大遠見の手前に設営して五竜岳登頂、五龍東壁を試登	
		○7.9～18 友田純一追悼碑建設作業 於五色ヶ原	2
		根本ほか7名	
		☆7.18 友田純一遭難碑除幕式 於五色ヶ原	
		○7.10～16 劔沢生活	3
		佐野ほか5名	
		○7.19～24 五色ヶ原より徳沢(友田追悼縦走)	4
		深谷光茂ほか17名	
		■7.18 『友田純一君追悼録』発行	
		○10.17～20 奥秩父縦走(甲武信岳-国師岳-金峯山)の予定で出発するも	
		▲10.24 甲武信岳・東沢で前田道夫(専2)、古澤孝平(専2)、長沼廣次(専1)3部員遭難死	5
21	1942	◎5月 鹿島槍ヶ岳・鎌尾根 山田(亮)ほか20名	1
	(昭和17)	◎5月 鹿島槍ヶ岳から白馬岳 根本ほか6名	
		◎5月 爺ヶ岳から針ノ木岳 山田(亮)ほか4名	
		○7.21～30 穂高・涸沢岩登り合宿 山田(亮)ほか25名	2
		○12月 乗鞍岳スキー 小林(茂)ほか ※大きな組織的な最後の合宿	
		【針葉樹会】	
		□10.30 『針葉樹会報』第99号 発行(第100号も予定されていたが最終号となった)	
22	1943	○3月 槍ヶ岳一の俣合宿 小林(茂)ほか4名	
	(昭和18)	○3月 大沢小屋合宿 松下ほか4名	
		○4.2～7 八ヶ岳合宿 中村讚治、山崎 擴、石井左右平	1
		○7月 穂高・涸沢合宿 石井ほか 予科2年生が主力で予科1年生を指導	
		■10.18 『前田・古澤・長沼三君追悼録 奥秩父』発行	
		○12月 槍沢より槍ヶ岳 中村(讚)、山崎、石井、笠原広信ほか	
23	1944	○3月 穂高・奥又白 中村(讚)ほか3名、[山上(松高生)]	
	(昭和19)	・前穂東壁Aフェース 中村(讚)、[山上]	1
		○4月 カクネ里より鹿島槍 野尻七郎ほか4名	
24	1945	☆☆6月末 山岳部・部室閉鎖(戦争による)	1
	(昭和20)	☆☆8月 山岳部・部室再開	
		☆☆秋 山岳部・部室改修(床の張り替え、屋根の補修)	

通年	年	事項・出来事	文献
25	1946	○6月 谷川岳 石井ほか4名 (昭和21) ・戦後最初の合宿。マチガ沢、一ノ倉沢を登る。 ○7月 穂高・涸沢&奥又白合宿 石井ほか ○10月 三ツ峠 新入部員歓迎山行 樋口 洪ほか	
26	1947	○11月 八ヶ岳 小泉三好ほか ・戦後派のみの山行。 ○12月 乗鞍岳スキー 伊藤恙生ほか	表末【資料1】参照
27	1948	☆☆春 山岳部・部室改修(床の張り替え、屋根の補修) ○5.12~ 谷川岳マチガ沢合宿 佐藤 勇ほか7名 ▲5.23 マチガ沢にて、雪塊直撃により山中健雄部員(本1)遭難死 ○夏 <穂高合宿> 新人の養成 ○冬 <蔵王スキー> 新人の養成	表末【資料1】参照 1 2
28	1949	○夏 <白根三山縦走> 望月敏治、小泉、竹脇 量 ■11.5 『故山中健雄君追悼録 谷川岳』 発行 ○冬 <八方尾根スキー> 小泉ほか ・明大小屋を根拠地とし、唐松岳追復	表末【資料1】参照
29	1950	○夏 <北岳バットレス> 小泉ほか (昭和25) ○冬 <乗鞍合宿> 位ヶ原山荘を根拠地とし雪洞訓練など翌年の冬山準備	
30	1951	○夏 <劔沢生活、針ノ木峠への縦走> (昭和26) ○12月 遠見尾根・五竜岳 小泉ほか ・12.25 五竜岳登頂 小泉、横山皖一	1 2
31	1952	○7.11~27 穂高・涸沢合宿&縦走 中村正司ほか27名 (昭和27) ★7.14 涸沢・北穂沢下で幕営、早朝睡眠中に落石に見舞われ福田 孟部員(1年)負傷 ・本体出発より涸沢到着まで太田可夫・山岳部長同行 ○7月 奥又白生活 渋谷一郎、石原 脩、甘利仁朗、佐藤 恭 ☆☆秋 山岳部・部室補修(二階の居住性復元) 【針葉樹会】 □9.1 『針葉樹会報』復刊第1号 発行 ※創立30周年記念事業として ※編輯者:石井左右平 伊藤恙生	1 2 3
32	1953	○2.26~3.13 穂高・岳沢合宿 石原 脩ほか3名 (昭和28) ○7.14~25 夏山合宿(劔沢定着) 石原ほか21名 ○7.26~31 夏山縦走(劔一槍) 石原ほか18名 ○12.17~25 柵池スキー合宿 石原ほか9名	1 2 3
33	1954	○3.14~.31 春山合宿(岳川よりコブ尾根・畳岩尾根・奥穂・前穂・西穂稜線) 石原ほか8名 (昭和29) ☆☆6.11 小平部室開きコンパ 食堂裏の2階、一時寮であった10畳敷の部屋 ○7.15~23 奥又白合宿 吉田義則ほか6名 ○7.15~26 涸沢合宿 石原ほか25名 ○7.26~8.3 夏山縦走(涸澤一船窪) 石原ほか10名 ○7.26~8.2 夏山縦走(涸澤一槍一蒲田川右俣一安房峠) 須山修平ほか4名 ○12.14~26 冬山合宿(遠見尾根-五竜小屋-五竜岳、唐松岳往復) 石原ほか7名 ※五竜小屋から鹿島槍ヶ岳登頂、唐松岳-白馬岳-柵池縦走の計画であったが、予想以上の 荒天で果せなかった。 ○12.16~26 冬期スキー合宿(柵池) 須山ほか20名	1 2 3 4 5 6 7
34	1955	○3.13~4.1 春山合宿(横尾、涸沢より前穂高岳北尾根) (昭和30) ※吉田ほか12名 ☆7.14 山岳部バッジ出来上がる(復刻製作)。 昔とほぼ同じものが完成 ☆11.3~6 一橋祭山岳部写真展(一橋大学創立80周年記念の一環として)	1

通年	年	事項・出来事	文献
		○7.15~25 夏山合宿(劔沢定着) 吉田ほか32名	2
		○7.26~31 夏山縦走(劔一槍) 吉田ほか13名	2
		○7.26~31 夏山縦走(劔一白馬) 甘利ほか9名	2
		○12.12~25 冬山合宿(鹿島槍ヶ岳天狗尾根と北壁ピーク・リッジ) 吉田ほか6名	3
		□12.31 『針葉樹』第11号(1953.4~1955.3) 発行	
		※編輯兼発行者: 吉田義則	
		※編輯委員: 吉田義則 佐藤 恭 甘利仁朗 上原利夫 茂木俊明	
		※「10号」以後の歩み: 1939年(昭和14年)~1952年(昭和27年)	
35	1956	○3.14~31 春山合宿(明神岳東稜) 山本健一郎ほか12名	1
	(昭和31)	○7.12~27 夏山合宿(涸沢定着) 山本(健)ほか33名 OB3名、部外1名	2
		○7.28~8.5 夏山合宿(北岳バットレス) 甘利ほか10名	2
		○7.28~8.1 夏山縦走(笠ヶ岳、烏帽子岳) 山本(健)ほか17名	2
		○12.8~24 冬山合宿(北岳バットレス) 山本(健)ほか11名	3
36	1957	○3.13~4.1 春山合宿(白馬岳猿倉台地を中心としたバリエーション・ルート) 岡垣治雄ほか18名	1
	(昭和32)	◎3.30~31 前穂高岳北尾根4峰正面壁松高ルート積雪期初登攀(甘利)	2
		※紫芳山岳会パーティー(甘利仁朗、永光俊一)	
		○7.14~28 夏山合宿(劔沢定着) 岡垣ほか37名	3
		○7.29~8.2 夏山縦走(劔沢一五色ヶ原一烏帽子岳一葛温泉) 岡垣ほか27名	3
		○8.25~30 北穂高岳滝谷 中村幸正、中村 保、篠原敏弘	
		◎8.30 グレボン初登 中村(幸)、中村(保)、[芳野満彦]	4
		○12.7~27 冬山合宿(槍ヶ岳から極地法による奥穂高岳登頂) 岡垣ほか10名	5
37	1958	◎1.7~8 北岳バットレス中央稜 積雪期初登攀 甘利	1
	(昭和33)	※RCCⅡパーティー(奥山章、吉尾弘、芳野満彦、小板橋徹、甘利仁朗)	
		○3.12~30 春山合宿(劔岳早月尾根) 澤木一夫ほか12名	2
		◎3.15~16 谷川岳一ノ倉沢烏帽子沢奥壁凹状岸壁 初登、積雪期初登 甘利	3
		※RCCⅡパーティー(奥山章、小板橋徹、甘利仁朗)	
		先行した雲表倶楽部パーティー(松本龍雄、山田宏、田中敏雄)に合流	
		※RCCⅡ発足時の記念碑的登攀の一つ。積雪期に新規開拓した意欲的な初登攀。	
		○7.14~29 夏山合宿(涸沢定着) 澤木ほか31名	4
		○7.30~8.1 夏山縦走(涸沢一剣) 澤木ほか19名	4
		☆11.4 山岳部々長辞任(太田可夫)	
		○12.10~26 冬山合宿(南アルプス北部縦走 三伏峠一北岳) 澤木ほか11名	5
38	1959	○3.8~22 春山合宿(劔岳赤谷尾根から極地法による劔岳本峰、毛勝山登頂) 渡辺嘉佑ほか14名	3
	(昭和34)	○7.11~25 夏山合宿(劔沢、三の窓定着) 渡辺(嘉)ほか26名	1
		○7.25~30 夏山縦走(劔一槍) 渡辺(嘉)ほか11名	1
		○7.26~8.1 夏山縦走(劔一白馬) 中川滋夫ほか10名	1
		☆9.12~14 山中健太郎遭難碑兼道標建立 於谷川岳マチガ沢厳剛新道分岐点	2
		☆10.25 山中健太郎遭難碑除幕式 於谷川岳マチガ沢	3
		(昭和42年に谷川岳の遭難碑は全て撤去、土合の遭難者合同慰霊碑に合祀された)	
		☆11.3 山岳部々長就任(関恒義)	
		○12.6~21 冬山合宿(燕岳から蝶ヶ岳への縦走と大天井岳からの槍ヶ岳登頂) 渡辺(嘉)ほか12名	4
39	1960	○3.8~28 春山合宿(劔岳早月尾根より劔岳及び頂上周辺のバリエーション・ルート)	1
	(昭和35)	中川(滋)ほか13名	
		○3.19 劔岳本峰南壁A1 中島 寛、大賀二郎	
		◎3.22 劔岳チンネ左稜線:積雪期初登 中川、小林進二	
		○3.23 劔岳本峰南壁A2 三股 宏、倉知 敬、三井 博	
		○4.30~5.8 鹿島槍ヶ岳・天狗尾根および北壁・荒沢奥壁 中島(寛)、大賀、三股、大 建二郎	2
		・5.3 北壁ピーク・リッジP1Bリッジ(中島(寛)、大)・P3(大賀、三股)	
		・5.4 北壁主稜(大賀、大)	
		・5.4 北壁主稜(中島(寛)、三股)	
		・5.6 荒沢北壁(中島(寛)、大賀、三股)	
		○7.9~23 夏山合宿(涸沢定着) 中川(滋)ほか25名	3
		□7.25 『針葉樹』第12号(1955.4~1960.3) 発行	
		※発行者: 中川滋夫、編輯委員: 峰高教通 大賀二郎 山本尚禎 倉知 敬	

通年	年	事項・出来事	文献
		○7.24~31 夏山縦走(涸沢-笠ヶ岳-針ノ木岳) 中川(滋)ほか11名	4
		○7.28~31 夏山縦走(黒部川横断) 中島(寛)ほか2名	5
		○7.24~31 夏山縦走(涸沢-劔岳) 大ほか5名	6
		○8.1~5 夏合宿延長戦(劔岳・チンネと池の谷) 大賀ほか9名	7
		○12.13~25 冬山合宿(冬期鹿島槍ヶ岳集中) 中川(滋)ほか13名	8
		・12.13-20 天狗尾根 中島(寛)ほか3名	
		・12.13-22 東尾根 小林(進)ほか3名	
		・12.14-25 赤岩尾根・爺ヶ岳西俣奥壁右稜・左稜 中川(滋)ほか5名	
		◎12.24 爺ヶ岳西俣奥壁左稜 積雪期初登	
		中島(寛)、小林(進)、倉知、大、三井	
40	1961	☆2.3 アンデス遠征隊壮行会 於国立学生食堂	
	(昭和36)	○4.3~13 春山合宿(五竜岳東面・八方尾根) 大ほか11名	1
		○4.29~5.3 爺ヶ岳東面 大ほか4名	2
		★5.3 爺ヶ岳西俣奥壁中央稜にて大 建二郎部員、三井 博部員(4年) 滑落事故	
		○7.11~26 夏山合宿(劔岳) 大ほか19名	3
		○7.26~8.1 夏山縦走(劔-槍ヶ岳-大滝山) 大ほか6名	4
		○7.27~8.1 夏山縦走(劔-笠ヶ岳) 宮本英治ほか5名	5
		○12.10~26 冬山合宿(爺ヶ岳東尾根-針ノ木岳) 大ほか10名	6
		※新越乗越手前の尾根から下山	
		【針葉樹会】	
		◎4.2~11.30 ペルー・ボリビア・アンデス遠征(一橋大学創立85周年記念事業の一環)	7
		隊長:吉沢一郎(昭3卒) 副隊長:甘利仁朗(昭33卒)	
		隊員:中村 保(昭33卒) 丸山則二(昭33卒)、中川滋夫(4年)、中島 寛(4年)、倉知 敬(3年)	
		・6.12 プカヒルカ北峰6,050m初登(中村、中島、中川)	
		・6.13 プカヒルカ北峰6,050m第2登(甘利、丸山、倉知)	
		・7月 チャウピ・オルコ峰周辺の登攀(ボリビア・アポロバンバ山群)	
		・8月 ププヤ山域の踏査・登攀(ボリビア・アポロバンバ山群)	
41	1962	○3.3~27 春山合宿(樽池より唐松岳) 臼井 弘ほか11名	1
	(昭和37)	※新越乗越手前の尾根から下山	
		○7.13 夏合宿(涸沢定着) 臼井ほか16名	
		★7.19 滝谷第4尾根にて名和泰三部員(3年) 滑落事故 7.20 合宿中止	2
		☆7.23 臨時針葉樹会(事故経過報告並びに費用調達について) 於如水会館	
		○12.13~27 冬山合宿(中央アルプス縦走 木曾駒-南駒ヶ岳) 臼井ほか9名	3
42	1963	○3.3~25 春山合宿(横尾尾根から奥穂高岳) 蛭川隆夫ほか13名	3
	(昭和38)	○5.13~ 5月の穂高周辺偵察行(西穂-槍ヶ岳縦走・明神岳東南稜)	
		★5.27 奥穂高岳の下りで中橋寿雄部員(4年) 滑落事故	1
		○7.18~31 夏山合宿(劔沢周辺定着) 蛭川ほか16名	
		○8.1~4 夏山縦走(内蔵助平-棒小屋沢-爺ヶ岳-針ノ木岳) 竹中 彰ほか3名	
		○8.1~7 夏山縦走(黒薙-柳又谷-雪倉岳-白馬岳-唐松岳) 小島和人ほか3名	
		○8.1~7 夏山縦走(内蔵助平-平一五色-薬師岳-黒部源流-鷲羽岳) 蛭川ほか11名	
		○12.14~27 冬山合宿(明神主峰-前穂高岳往復) 蛭川ほか9名	
43	1964	○3.3-3.27 春山合宿(湯俣尾根から槍・北穂へ) 小島ほか11名	1
	(昭和39)	□10.31 『針葉樹』第13号(1960.4~1962.3) 発行	
		※編集委員:倉知 敬 大 建二郎 三森茂光 高崎俊平	
		○6.11~20 三年合宿(奥又白周辺の岩登り) 高崎俊平ほか5名、OB1名	2
		○7.16~29 夏山合宿(涸沢周辺定着) 小島ほか18名	
		○7.30~8.7 夏山縦走(横尾本谷-中岳-槍-双六-抜戸-打込谷下降-金木戸川-双六-湯俣)	
		原 博貞ほか3名	
		○7.30~8.8 夏山縦走(劔まで) 小島ほか4名	
		○7.30~8.3 夏山縦走(上の廊下へ向かうも岩苔小谷で引き返す) 佐藤之敏ほか3名	
		○8.3~11 夏山縦走(新冠川-エサオマントツバツ岳-トツバツ川-帯広) 半場三雄ほか3名	
		○8.12~15 富士山清掃(清富会の第1回) 代表幹事:小島和人	3
		※一橋山岳部が発起人(25名)、東京女子大(7名)、東京外語大(2名)、東京学芸大(3名)、 東京家政学院(7名)、一橋ワグナーフォーゲル部(17名)	

通年	年	事項・出来事	文献
		○12.7～26 冬山合宿(北鎌尾根) 小島ほか16名	4
		【針葉樹会】	
		☆6.1 針葉樹会会則施行	
44	1965	○3.2～24 春山合宿(岳沢周辺の山々) 高崎(俊)ほか12名	
	(昭和40)	○8.16～19 富士山清掃(清富会の第2回) 代表幹事:高崎俊平	1
		※一橋山岳部(16名)、一橋ワンダーフォーゲル部(18名)、東京女子大(24名)、東京外語大(3名)、東大(1名)、東工大(1名)、理科大(1名)	
		○8.24～30 夏山縦走(黒四一五色一薬師一槍一横尾、定着に合流 池知昭洋ほか4名	
		○8.24～9.6 夏山合宿(滝谷、奥又、屏風岩周辺) 高崎(俊)ほか5名	
		○9.27～30 谷川岳一ノ倉沢衝立正面 原、佐藤(久)、池知、石田信隆	2
		※一橋山岳部の最初のトレース	
		○12.15～29 冬山合宿(涸沢岳西稜一北穂一横尾尾根) 高崎(俊)ほか5名	3
		○12.14～24 冬山合宿(笠ヶ岳一疏横尾根) 池知ほか4名	
		【針葉樹会】	
		◎7.20～8.26 カラコルム遠征先遣隊 1965年夏(一橋山岳会)	4
		(アフガニスタン・ヒンズークシュ遠征) 表末【資料2】参照	
		隊長:甘利仁朗(昭33卒)	
		隊員:丸子博之(昭35卒)、佐藤之敏(昭41卒)	
		・8.26 ミールサミール6,060m登頂(第2登)	
		☆10.19 ヒマラヤ先遣隊報告会 於如水会館	5
45	1966	○3.6～23 春山合宿(三伏一塩見一北岳一池山吊尾根) 岡田健志ほか6名	
	(昭和41)	★3.16 八本歯にて加藤正巳部員(2年)転落足首骨折	
		○8.1～15 夏山定着合宿(劔沢周辺) 岡田(健)ほか10名	
		○8.12～15 富士山清掃(清富会の第3回) 代表幹事:岡田健志	1
		※一橋山岳部(12名)、一橋ワンダーフォーゲル部(11名)、東京女子大(4名)、東京外語大(1名)	
		○12.10～15 冬山合宿(内蔵助平往復) 岡田(健)ほか8名	
		※当初の計画では、内蔵助平から真砂岳を経て劔岳登頂	
		【針葉樹会】	
		□11.15 『針葉樹会報』第16号 -磯野計蔵氏追悼特集- 発行	
46	1967	○3.4～18 春山合宿(杓子岳双子尾根一唐松岳・白馬三山) 中村雅明ほか7名	1
	(昭和42)	●7.4 太田可夫顧問(元山岳部長) 逝去	2
		○8.1～7 夏山縦走(針ノ木岳一槍ヶ岳一涸沢) 中村(雅)ほか4名	
		○8.15～22 夏山縦走(黒部源流一薬師沢一薬師岳) 加藤(正)ほか2名	

通年	年	事項・出来事	文献
		○8.22~9.4 夏山定着(涸沢周辺) 中村(雅)ほか8名	
		☆☆10.5 山岳部室補修(土台&床:72,400円)	
		○12.11~26 冬山合宿(八方尾根-五竜岳-A沢のコレにて敗退 加藤(正)ほか3名	3
		○12.12~26 冬山合宿(爺ヶ岳南尾根-鹿島槍ヶ岳往復) 中村(雅)ほか4名	4
		※当初の計画では、八方尾根からの縦走隊と合流し針ノ木岳登頂	
		【針葉樹会】	
		☆5.24 ヒンズークシュ遠征隊歓送会 於如水会館南北日本間	5
		◎5.29-8.30 東部ヒンズークシュ・ロシゴル氷河群遠征(一橋山岳会)	6
		隊長:山本健一郎(昭32卒)	
		隊員:倉知 敬(昭38卒)、佐藤之敏(昭41卒)、原 博貞(昭41卒)、池知昭洋(昭41卒)、 佐藤久尚(昭41卒)、宮武幸久(3年)、ドクター:鈴木羊三(慈恵医大山岳部OB)	
		・8.4 ノーバイズノン・ゾム6,600m初登(倉知、佐藤(之)、原、佐藤(久))	
		・8.11 ウドレン・ゾム南峰7,050m初登(倉知、佐藤(之)、原、佐藤(久))	
		・8.24 サラグラール南峰7,307m初登(佐藤(之)、原)	
		□10.31 『針葉樹会報』第20号 -太田可夫先生追悼集- 発行	
		☆11.17 ヒンズークシュ遠征隊帰朝歓迎会(総会) 於如水会館南北日本間	
47	1968	○3.5~23 春山合宿(弥陀ヶ原より剣岳) 俵 昭ほか11名	
	(昭和43)	○4.25~5.2 遠見尾根-カクネ里-天狗尾根-鹿島槍ヶ岳往復 俵ほか5名	1
		▲5.1 下山途中、第1クーロアール付近で中村慎一郎部員(2年)滑落遭難死	
		○7.25~30 夏山定着(涸沢周辺、北尾根等) 俵ほか7名	
		○7.31~8.8 夏山縦走(白出のコレ-笠ヶ岳-赤牛岳-平-針ノ木-鹿島槍ヶ岳)	
		○12.23~26 冬山合宿(爺ヶ岳南尾根より鹿島槍ヶ岳、針ノ岳往復) 俵ほか5名	
		【針葉樹会】	
		☆10.21 東沢遭難追悼碑除幕式 於釜の沢出合	2
48	1969	○3.5~23 春山合宿(大沢尾根より赤石、荒川岳) 宮武幸久ほか4名	1
	(昭和44)	○7.25~8.11 夏山合宿(剣沢定着、チンネ左稜線等) 宮武ほか7名	
		※定着終了後、槍へ向かう豪雨のため五色で断念	
		○10.7~12 秋山縦走(茶臼岳-北岳) 西牟田伸一ほか3名	
		○10.7~12 秋山縦走(仙丈岳-両股-北岳-農鳥岳) 金子晴彦、井草長雄	
		【針葉樹会】	
		☆8.19 日本山岳会第二次エヴェレスト偵察隊へ参加中島寛、佐藤之敏両君歓送会 於如水会館	2
		※南西壁の8,050mまで到達し、登攀ルートを偵察	
49	1970	○3.26~4.4 春山合宿(戸台-甲斐駒-仙丈-両股-北岳-農鳥岳) 金子ほか6名	
	(昭和45)	■6.1 『故中村慎一郎君追悼録』発行 発行兼編集人:西牟田伸一	1
		○4.21~27 ポスト春山合宿(戸台川本谷-甲斐駒-鋸岳-尾白川本谷、坊主岩) 金子ほか4名	
		○7.27~8.6 夏山合宿(針ノ木峠-高天原、黒部上ノ廊下、源流-笠ヶ岳-錫杖岳) 金子ほか5名	
		○8.31~9.5 ポスト夏山合宿(甲斐駒黄蓮谷、赤石沢奥壁) 金子ほか3名	2
		▲9.2 中央壁にて西牟田伸一部員(4年)墜落、橋本明部員(2年)も墜落遭難死	
		○12.25~1.2 冬山合宿(樽池スキー合宿) 金子ほか5名	
		【針葉樹会】	
		☆3.5 中島君エベレスト壮行会 於如水会館 中川孫一会長ほか25名	3
		☆3.9~6.20 日本山岳会第二次エヴェレスト登山隊へ中島 寛会員(昭36卒)参加 ※南西壁登攀チームに所属、落石により負傷	4
		▲6.28 平川紀男会員(昭41卒)前穂高A沢踏替点近くで遭難死	5
50	1971	■6月 『赤石沢 追悼 橋本明君』発行 編集:金子晴彦	
	(昭和46)	○7.26~8.9 夏山縦走(涸沢定着後剣岳まで縦走) 井草ほか5名	
		※5月連休の新人歓迎山行、6月の谷川訓練、夏山縦走以外は合宿なし。 他は個人山行のかたちで、1年が中心となりOBの同行を求めて月1、2回山行	
		【針葉樹会】	

通年	年	事項・出来事	文献
		☆12.12 丹沢大野山で中川孫一前会長が行方不明	1
		※12.14～針葉樹会員捜索活動	
51	1972	○4.28～5.7 内蔵助平定着(現役・OB合同合宿) 上田 伸ほか7名、OB7名	1
	(昭和47)	○7.24～8.10 夏山縦走(涸沢定着後針ノ木峠-烏帽子岳-槍ヶ岳-上高地) 上田ほか8名	
		○12.11～14 冬山合宿(御岳) 上田ほか6名	
		【針葉樹会】	
		▲3.22 丹沢大野山で中川孫一前会長の遺体発見	2
		※針葉樹会の遭索隊[望月達夫、甘利仁朗、柴崎 新、井草長雄(学生)]によって	
		□3.20 『針葉会会員名簿(1972年版)』発行	
		☆4.12 中川孫一氏追悼会 於如水会館 吉沢一郎ほか41名、学生:井草長雄ほか3名	2
		□7.25 『針葉樹』第12号 発行	
		□7月 『針葉樹会報』第33号 -- 平川紀男氏追悼集 -- 発行	
		□9月 『針葉樹会報』第34号 -- 中川孫一氏追悼集 -- 発行	
		☆12.1 部創立50周年記念・忘年会 於如水会館 金田近二ほか60名	3
52	1973	○3.13～22 春山合宿(柵池-白馬三山往復) 前神直樹ほか4名[2年と1年のみ]	
	(昭和48)	○7.19～30 夏山定着(涸沢周辺、ジャンダルム飛驒尾根、滝谷三尾根等) 前神ほか9名	
		○7.31～8.8 夏山縦走(槍ヶ岳-東沢-劔岳) 前神ほか3名	
		○7.31～8.4 夏山縦走(槍ヶ岳-裏銀-烏帽子岳) 藤本敏行ほか3名	
		○12.16～25 冬山合宿(燕岳-西岳-槍ヶ岳を狙うも敗退) 前神ほか7名	
		※水俣乗越の先から撤退	
		【針葉樹会】	
		☆1月末 一橋山岳部バッジ復刻製作(アキバ徽章) 2月中旬に配布完了(約50名)	1
53	1974	○3.8～19 春山合宿(高嵐尾根より黒部源流、雲の平、赤牛岳、黒部五郎岳) 前神ほか6名	1
	(昭和49)	○7.19～8.8 夏山合宿着(涸沢定着後縦走) 前神ほか9名	
		・裏銀-鹿島槍ヶ岳	
		・野呂側右俣-奥西河内沢-小渋川	
		・日高カムイエクウチカウシ	
		●10月末 増井 誠部員(3年) 事故死	2
		○12.16～25 冬山合宿(笠ヶ岳から槍ヶ岳) 前神ほか7名	3
54	1975	○3.10～19 春山合宿(光岳-赤石岳-西沢渡) 加藤博行ほか6名	1
	(昭和50)	○7.19～28 夏山定着(劔沢周辺、チンネ左稜線等) 加藤(博)ほか12名	
		○7.28～8.2 夏山縦走(薬師岳-黒部五郎岳-赤牛岳-東沢出合-針ノ木峠) 加藤(博)ほか4名	
		☆☆8.7～9 山岳部部室修理(屋根の全面的葺き替え、換気扇の取付け)	2
		○8.4～12 夏山縦走(日高および大雪山系) 兵藤元史ほか3名	3
		◎9.6～30 海外遠征(インドヒマヤーハスマンティバ登頂) 前神、藤本[両名5年生]	4
		・9.27 ハスマンティバ(5,928m)登頂	
		○12.11～21 冬山合宿(遠見尾根-五竜、鹿島槍ヶ岳、爺ヶ岳) 加藤(博)ほか8名	5
		【針葉樹会】	
		□12月 『針葉樹会報』第45号 -- 村尾金二氏追悼集 -- 発行	
55	1976	○3.9～20 春山合宿(西穂稜線より奥穂、前穂を目指すもロバの耳で敗退) 松田重明ほか5名	1
	(昭和51)	○7.18～30 夏山定着(涸沢定着、滝谷・クラック、第1尾根等) 松田ほか12名	
		○7.31～8.7 夏山縦走(槍ヶ岳-祖父岳-薬師峠-有峰) 松田ほか7名	
		○12.11～17 冬山合宿(白山) 松田ほか6名	2
56	1977	○3.7～16 春山合宿(柵池-白馬岳) 神野 隆ほか4名	
	(昭和52)	○7.19～28 夏山定着(劔岳、真砂沢、チンネ北条、新村等) 近藤 泰ほか6名	
		○7.30～8.5 夏山縦走(五色ヶ原-雲の平-槍ヶ岳) 近藤(泰)ほか2名	
		○7.30～8.5 夏山縦走(平-東沢-雲の平-槍ヶ岳) 神野ほか2名	
		◎9.6～30 海外遠征(ケニア山レナナ峰登頂) 松田、佐藤活朗[両名5年生]	1
		・9.13 トップ小屋からレナナ峰(4,985m)往復	
		○12.10～24 冬山合宿(奥大日尾根より劔を目指すも劔御前で敗退) 近藤(泰)ほか6名	
		【針葉樹会】	
		☆4.2 吉沢一郎氏のK2壮途を祝う集い 於如水会館南北日本間	
		※吉沢:日本山岳協会のK2登山隊総指揮、73歳の身で自らも5200mのベースキャンプに20日間滞在(5.9出発、6.16BC着、7.7下山、8.7帰国)	2

通年	年	事項・出来事	文献
		□8月 『針葉樹会報』第50号 発行	
		☆9.3 甲斐駒追悼碑除幕式	3
57	1978	○3.11~15 春山合宿(転付峠-千枚岳-悪沢岳) 神野ほか4名	1
	(昭和53)	★3.14 悪沢岳西面の斜面で中西茂部員(2年)が滑落、15日自衛隊のヘリで救出される。	
		○7.20~30 夏山定着(涸沢定着、滝谷第3尾根等) 神野ほか12名	2
		★7.28 前穂四峰東南面で岡部寛史部員(3年)が落石を受け、29日ヘリで救出される。	2
		○12.15~24 冬山合宿(風吹大池-白馬大池-白馬岳往復) 神野ほか9名	
58	1979	○3.12~19 春山合宿(燕岳-大天井-常念) 引地 真ほか6名	1
	(昭和54)	○7.21~30 夏山定着(真砂沢定着、ハツ峰6峰Cフェース等) 引地ほか10名	
		○12.12~19 冬山合宿(遠見尾根-五竜岳-唐松岳往復) 引地ほか9名	
59	1980	○3.11~20 春山合宿(夜叉神峠-池山吊尾根-北岳-塩見岳-三伏峠) 小林 修ほか6名	1
	(昭和55)	○7.21~30 夏山定着(涸沢周辺、ジャンダルム飛驒尾根等) 小林(修)ほか14名	
		○8.1~13 夏山縦走(槍ヶ岳-烏帽子-針ノ木峠-東沢-水晶岳-雲の平-黒部源流-黒部五郎岳-薬師岳-折立) 小林(修)ほか3名	
		○8.1~12 夏山縦走(東沢-針ノ木岳-スバリ西尾根、中尾根) 土方 浩ほか3名	
		○11.21~25 富士山水雪訓練 小林(修)ほか13名	
		★11.23 富士吉田口、訓練中に滝浦 剛部員(1年)が約200m滑落骨折事故	2
		○12.26~1.6 冬山合宿(スバリ岳-爺ヶ岳-鹿島槍ヶ岳、キレット越えを目指すも断念)	3
		土方 浩ほか8名	
60	1981	○3.9~22 春山合宿(奥大日尾根-劔岳-雄山東尾根-黒部ダム-扇沢) 土方ほか8名	
	(昭和56)	○7.23~30 夏山定着(涸沢周辺) 宮下克彦ほか8名	
		○8.1~8 夏山縦走	
		①安島孝和ほか2名 穂高 ②宮下ほか3名 白馬 ③竹若敬三ほか1名 針ノ木	
		○8.1~9.25(予定) インドヒマラヤ(ホワイトセール峰)	1
		隊長:中村宣幸 隊員:土方 浩、萬濃英士 [全員4年生]	
		▲8.9~13 南東稜上にて遭難	2
		■10.31 『一橋大学山岳部インドヒマラヤ登山隊 1981 遭難報告』発行	
		【針葉樹会】	
		☆12.15 針葉樹会臨時総会「ホワイトセール峰遭難及び救助活動報告」	
		於東京駅前新丸ビル地下1階レストラン「ポールスター」	
61	1982	○3.15~26 春山合宿(阿弥陀岳-硫黄岳-横岳-蓼科山) 岡部晃和ほか7名	
	(昭和57)	○7.21~31 夏山定着(真砂沢定着) 岡部ほか10名	1
		○8.1~11 夏山縦走(後立山より日本海へ) 岡部ほか4名	2
		☆9.12 故萬濃英士慰霊碑除幕 於長野県青木湖畔	3
		○12.12~20 冬山合宿(中央アルプス宝剣-空木岳-マゼナミ) 岡部ほか9名	
		【針葉樹会】	
		□6.23 『針葉樹会報』第61号 発行 (この号から「復刊」の文字が消える)	
		☆8.23 「ホワイトセール隊遭難にかかる金子・小林OB訪印についての御家族への説明会」	4
		於養和クラブ(千代田ビル) ご家族・OB・学生13名出席	
62	1983	○3.20~28 春山合宿(白山) 石川保典ほか7名	
	(昭和58)	○7.22~29 夏山定着(涸沢定着) 石川ほか8名	
		★7.25 東稜にて五ヶ山 淳部員(3年)が滑落、合宿中止	
		○7.30~8.7 夏山縦走(戸台-仙丈-三峰岳-塩見岳-荒川岳-聖岳-畑薙ダム) 石川ほか5名	
		■10.15 『追悼 一橋大学山岳部インドヒマラヤホワイトセール峰登山隊三君に捧ぐ』発行	
		■11.20 『白きヒマラヤの巨帆-1981年ホワイト・セール遭難報告書』発行	
		○12.13~25 冬山合宿(北俣岳から槍ヶ岳) 石川ほか6名	1
		【針葉樹会】	
		▲8.30 南日高神威岳で大塚 武会員(昭16卒)が遭難死	2
63	1984	○3.20~27 春山合宿(飯豊山往復) 石丸義男、白石章治、谷口隼人	
	(昭和59)	○7.22~30 夏山定着(劔沢定着) 石丸ほか8名	
		○8.2~11 夏山(広河原定着&縦走) 谷口、鮎沢政文	
		・シレイ沢、鋸岳等往復、両俣経由北岳、農鳥岳へ	
		○12.14~21 冬山合宿(爺ヶ岳東尾根から鹿島槍ヶ岳-赤岩尾根) 石丸ほか5名	1
64	1985	○8.7~17 夏合宿縦走(劔岳から槍ヶ岳) 鮎沢ほか8名	1

通年	年	事項・出来事	文献
	(昭和60)	○8.18~23 夏合宿定着(涸沢定着) 谷口ほか10名	1
		○8.24~28 夏合宿上級生残留岩登り(滝谷、屏風岩) 谷口ほか4名	1
		○12.14~27 冬山合宿(飯豊連峰:水晶尾根-大日岳-飯豊本山-松の木尾根) 谷口ほか7名	1
		【針葉樹会】	
		□6.27 『針葉樹』第14号(1963.4~1984.3) 発行	
		※編集委員:佐藤久尚 金子晴彦 米田篤裕 宮下克彦	
		□7.25 『針葉樹(復刻版)』第1号~第13号 発行	
		※編纂担当責任者:佐藤久尚	
65	1986	○3.17~22 春合宿(白馬岳主稜-白馬三山往復-拇池) 鮎沢ほか5名	1
	(昭和61)	○7.23~8.1 夏合宿前半定着(剣岳真砂沢) 鮎沢ほか9名	1
		○8.2~8.12 夏合宿後半縦走&沢登り	1
		①槍・穂高へ縦走:河野 正ほか3名 ②上ノ廊下(主に沢登り):齋藤 誠ほか2名	
		③後立山(東沢-烏帽子岳-鹿島槍-白馬岳-親不知):鮎沢ほか1名	
		○12.15~24 冬合宿(笠ヶ岳南西尾根-槍ヶ岳-中崎尾根) 鮎沢ほか5名	1
		【針葉樹会】	
		□6.25 針葉樹会会計細則改正 (昭和61年度針葉樹会総会で決議)	2
		※会計細則第1項	
66	1987	○3.18~23 春合宿(谷川:武能山-谷川岳-万太郎山-平標山) 齋藤(誠)ほか6名	1
	(昭和62)	○8.4~14 夏合宿前半定着(涸沢) 齋藤(誠)ほか7名	1
		○8.18~25 夏合宿後半縦走(北海道・十勝岳-大雪山) 小野一ほか2名、他1名	1
		○12.15~24 冬合宿(前穂高岳北尾根) 齋藤(誠)ほか5名	1
67	1988	○3.16~24 春合宿(白山、三方岩岳-大日岳) 小野 一ほか3名	1
	(昭和63)	○8.2~13 夏山合宿(剣沢・真砂沢定着) 小野(一)ほか8名 (事故の為13日に中止)	2
		▲8.12 剣岳源次郎尾根 I 峰平蔵谷中央ルンゼルトの取り付き付近の雪渓にて	3
		細野伸二部員(3年)が滑落遭難死	
		■8月 『細野伸二君遭難事故仮報告書』 発行	
		○9.6~10.30 海外(ヨセミテ・クライミング) 鮎沢	4
		○12.19~24 冬合宿(赤岳鮎泉定着、北八ヶ岳~南八ヶ岳縦走) 小野(一)ほか5名	1
		◎12.30~1.1 前穂高岳屏風岩東壁「トリプル・ジョーカー」冬期初登、通算第2登	5
		鮎沢、[浅沼 順]	
		※屏風岩で拓かれたアメリカンエイドルート(冬期初登攀、通算第2登)	
68	1989	◎2.12~3.27 ネパール・ヒマラヤ クスム・カングル峰(6367m)北稜 井上弘之	1
	(昭和64)	※日本山岳会学生部が実施した海外遠征隊に参加(6大学6人)	
	(平成01)	○3.16~21 春合宿(遠見尾根) 小野(一)ほか2名	2
		※五竜岳-唐松岳-八方尾根を目指すも西遠見手前で敗退	
		◎3.18~21 鹿島槍ヶ岳北壁蝶型氷のリボン登攀 鮎沢ほか1名(部外)	3
		※鮎沢、[神沢 章]	
		※1983.3.20 藤原、中村パーティーの初登以来の第2登	
		★7.27 内藤久裕部員(3年)が小川山でフリークライムの訓練中転落事故	
		※8月に予定されていた夏合宿(十勝・大雪の沢登り・縦走)は中止	
		☆10月 来年春まで休部とする(学生部長・山岳部長協議結果に従い)。	4
		【針葉樹会】	
		□7.1 『針葉樹会報』第73号 -- 追悼 山田亮三氏 -- 発行	
69	1990	○2.15~18 八海山(半年間の活動停止を経て、部の登山活動再開) 山内 太、古田 茂	1
	(平成02)	○8.2~10 夏合宿前半(ダイヤモンドコースを沢登りを絡めて剣沢まで) 山内ほか3名	1
		○8.11~12 夏合宿後半(剣岳・細野伸二君追悼山行) 山内ほか、OB、細野家	2
		○12.15~20 冬合宿(燕岳-大天井岳-常念岳-蝶ヶ岳-鍋冠山) 山内ほか2名	1
		■2.1 『追悼 細野伸二君 一剣岳遭難報告・追悼』 発行	
		【針葉樹会】	
		☆1.18 針葉樹会臨時評議委員会 於丸の内養和クラブ	3
		※議題:一橋山岳部の現状と今後について	
		◎1.29~2.1 パタゴニア・フィッツロイ「スーパー・クーロワール」登攀 鮎沢ほか1名(部外)	4
		※アスペン・クラブ(鮎沢、[岩崎 洋])	
		○4.5~16 中村 保会員(昭33卒)「玉龍雪山とその周辺」(「ヒマラヤの東」踏査開始)	5

通年	年	事項・出来事	文献
		※1990年から2011年に亘り32回の踏査	
		※第2回以降の足跡は本誌「ヒマラヤの東—チベットのアルプス 踏査クロニクル」に掲載	
70	1991	☆3月 石弘光山岳部長辞任、体育会から離脱し、任意団体(サークル)となる。	1
	(平成03)	○7.31~8.7 夏合宿前半(大雪山縦走・クワウンナイ川遡行) 天羽康之ほか5名	2
		○8.9~11 夏合宿後半(知床縦走・羅臼岳—硫黄岳) 天羽ほか5名	2
		○12.20~24 冬合宿(鳳凰三山縦走・ハケ岳縦走:硫黄岳—蓼科山) 天羽ほか4名	2
71	1992	○3.19~23 春合宿(谷川山系:白毛門—朝日岳—清水峠—谷川岳) 天羽ほか3名	1
	(平成04)	○8.3~13 夏合宿(涸沢—北穂高岳—槍ヶ岳—針ノ木岳—唐松岳) 天羽ほか3名	1
		○12.16~22 冬合宿(爺ヶ岳東尾根より鹿島槍ヶ岳) 天羽ほか3名	1
72	1993	○3.16~23 春合宿(池山吊尾根—北岳—間ノ岳—農鳥岳—白河内岳—黒河内岳)	1
	(平成05)	寺島 修ほか2名	
		○8.5~19 夏合宿(剣岳—薬師岳—赤木沢—槍ヶ岳—涸沢—北穂高岳&奥穂高岳) 寺島ほか3名	1
		○12.16~20 冬合宿(遠見尾根—五竜岳—唐松岳—八方尾根) 寺島ほか3名	1
73	1994	○3.8~15 春合宿(赤岳南峰リッジ左稜、お鉢周り、阿弥陀岳北稜、縦走)	1
	(平成06)	寺島ほか3名、OB1名	
		○3.25~31 春合宿(尾瀬:平ヶ岳、至仏山) 古瀬泰介ほか1名	2
		○8.5~14 夏合宿(上高地—槍沢—三俣蓮華—高天原—笠ヶ岳) 古瀬ほか3名	2
		○9.5~10 夏合宿(北海道 旭岳—黒岳—白雲岳—忠別岳—化雲岳—トムラウシ—美瑛岳)	2
		淵澤貴子、吉武みゆき	
		○12.14~23 冬合宿(打保—寺地山—黒部五郎岳) 寺島ほか4名	2
		【針葉樹会】	
		□5月 『針葉樹会報』第80号 -近藤恒雄氏追悼集- 発行	
74	1995	○3.18~23 春合宿(巻機山—上州武尊) 淵澤ほか2名	1
	(平成07)	○8.1~15 夏合宿(日高山域) 淵澤ほか5名	1
		※ペテガリ、ルベツネ、オロマップ、コイカクシュサツナイ、カムイエクウチカウシなど	
		○12.14~19 冬合宿(鳳凰三山、甲斐駒、仙丈岳) 淵澤ほか2名	1
		【針葉樹会】	
		☆2.2 カカボラジ偵察隊壮行会 於如水会館記念室	2
		◎2.4~4.2 ミャンマー・カカボラジ峰偵察	3
		※隊長:引地 真(昭55卒) 副隊長:古田 茂(平7卒) 隊員:古瀬泰介(平8卒)	
		□4月 『一橋大学山岳会カカボラジ峰登山隊偵察隊 報告書』 発行	
75	1996	○2.21~25 春合宿(ハケ岳縦走) 西井 薫、宗像 充、OB1名	1
	(平成08)	○8.2~10 夏合宿(室堂—剣岳—薬師岳—槍ヶ岳—北穂高岳—奥穂高岳—上高地) 西井 薫ほか3名	1
		○12.13~19 冬合宿(燕岳・大天井岳) 西井ほか2名	1
		【針葉樹会】	
		□3.15 中村保『ヒマラヤの東』 山と溪谷社 出版	
		※副題:-雲南・四川、東南チベット、ミャンマー北部の山と谷	
		※第11章 幻の山、カカボラジ偵察行(1995年)	
76	1997	○3.19~21 春合宿(遠見尾根—五竜岳) 宗像ほか1名	1
	(平成09)	○9.3~12 夏合宿(甲斐駒ヶ岳—光岳) 宗像ほか3名	1
		○12.18~24 冬合宿(蝶ヶ岳—霞沢岳) 宗像ほか1名、[駒沢大2名]	1
77	1998	○3.16~23 春合宿(東海谷—頸城三山) 宗像、[千葉大2名]	1
	(平成10)	○4.29~5.5 ブータン登山隊合同山行(北アルプス硫黄尾根—西穂高岳) 宗像ほか	
		※日本山岳会学生部・ブータン登山隊の参加メンバー有志による山行	
		○6.11~15 文部省登山研修所山岳遭難救助技術研修会(立山雑穀谷) 宗像	1
		○8.2~12 夏合宿(剣沢定着・祖母谷—白馬岳—親不知) 宗像ほか3名、OB2名	1
		◎10.3~11.7 日本山岳会学生部ブータンヒマラヤ登山(ブータンヒマラヤ5727m峰:敗退)	2
		※宗像ほか6大学各1名	
		○12.18~23 冬合宿(北アルプス針ノ木岳) 宗像ほか2名	1
78	1999	○3.6~8 春合宿(北アルプス笠ヶ岳南西尾根:敗退) 宗像ほか2名、[千葉大1名]	1
	(平成11)	☆☆3月末 山岳部新部室落成	2
		※部室再建幹事:西牟田伸一(昭47卒)	
		☆春 体育会に復帰(山岳部長は不在)	
		☆4.3 花見の宴(新部室披露&記念植樹) 於山岳部新部室前	2

通年	年	事項・出来事	文献
		○5.27～30 雪上訓練(涸沢定着) 宗像ほか3名	
		★5.30 田中真之部員(4年)が北穂高沢の雪渓を下降中に落石を受け負傷	3
		○7.31～8.8 夏合宿(北アルプス真砂沢定着) 宗像、山田秀明、OB3名、[上智大1名]	1
		【針葉樹会】	
		□4.26 『針葉樹会報』第88号 -中島寛氏追悼特集- 発行	
		□10.25 『針葉樹会報』第89号 -特集 新部室落成- 発行	
79	2000	○3.17～21 春合宿(抜戸岳南尾根-笠ヶ岳-広サコ尾根東北支稜)	
	(平成12)	宗像、山田(秀)、関西学院大1名	
		[2000年度]12月までは留学生1名(2年)が在籍。基本的には全て山田(秀)(2年)独りで運営	
		○8.4～13 夏合宿(剱岳真砂沢定着、室堂-上高地縦走) 山田(秀)、[上智大1名(定着)]	1
		【針葉樹会】	
		◎3.5～7 九州・傾山ニツ坊主岩「モダンタイムス」無雪期初登攀 宗像ほか3名(部外)	2
		宗像、[太田孝介、織原健二、長岡正敏]	
		※九州・傾岩のニツ坊主岩のアメリカンエイドルートによる新ルート開拓	
		□11.10 中村保『深い侵食の国』山と溪谷社 出版	3
		※副題:ヒマラヤの東 地図の空白部に行く	
80	2001	[2001年度]12月までは新人2年生2名在籍。基本的には全て山田(秀)(3年)独りで運営	
	(平成13)	○7.30～8.11 夏合宿(北海道:①小樽赤岩登攀②芦別岳縦走③大雪山-十勝岳縦走	
		④クワウンナイ川遊行⑤知床縦走) 山田(秀)ほか2名	
		☆☆秋 山岳部室内クライミングウォール設置	1
		○12.23～30 冬合宿(爺ヶ岳東尾根-鹿島槍ヶ岳) 山田(秀)、鳥本真司、[青山学院3名]	2
81	2002	○6.1～2 足尾山塊・庚申川本流 山田(秀)ほか2名(部外)	1
	(平成14)	[2002年度]鳥本(3年)が12月に復部。基本的には山田(秀)(4年)独りで運営。	
		【針葉樹会】	
		☆7.9 山岳部創立80周年記念事業(日本山岳会への寄付)	2
		※日本山岳会常務理事会にて贈呈(石原、山本(健)、中村(保))	
82	2003	[2003年度]鳥本(4年)が独り在籍するも実質的活動は殆ど無し。OBとの合同山行が2件	
	(平成15)	【針葉樹会】	
		☆2月 吉沢一郎会員の蔵書(和書1565冊)がアメリカ山岳会に寄贈された。	1
		□4.30 『針葉樹会報』第98号 -望月達夫氏追悼特集- 発行	
		□6.25 針葉樹会会則細則改正(平成15年度針葉樹会総会で決議)	2
		※会費細則第1項、付則:経過措置	
		◎8.30 奥秩父・笛吹川東沢ホラノ貝ゴルジュ 山田(秀)ほか2名(部外)	3
		※日本山岳会青年部パーティ(山田(秀)、[和田岳史、斎藤 丁])	
		※普通、人工登攀で越える核心部をフリークライムで越えた第2登	
		☆12.6 中村保会員(昭33卒)が平成15年度(第6回)秩父宮記念山岳賞を受賞	4
		※日本山岳会・年次晩餐会において	
83	2004	[2004年度]ロシアからの留学生(コンスタンチン・チェルニシェフスキー)が入部、鳥本(5年)と2人で活動。	1
	(平成16)	○8.18～20 ロシア:バイカル湖付近チェルスキーピーク2090m 鳥本、コンスタンチンほか3名(部外)	2
		○12.25～26 雲取山 鳥本、コンスタンチン	2
		【針葉樹会】	
		□1.21 『針葉樹会報』第100号 -100号記念特集- 発行	
		※針葉樹会報1～100号総目次所収	
84	2005	[2005年度]部員はコンスタンチン・チェルニシェフスキー(2年)1人	
	(平成17)	○6.11 伊豆長三郎岳 コンスタンチンほか3名(部外)	
		【針葉樹会】	
		□2月末 中村保『チベットのアルプス』山と溪谷社 出版	1
		※「ヒマラヤの東」3部作完結編	
		◎4.29～5.5 白神山地(一ツ森-白神岳-田代岳)横断縦走 山田(秀)ほか2名(部外)	2
		※山登魂パーティー(山田(秀)、治田敬人、佐藤益弘)	
		※白神岳から田代岳まで積雪期初完全縦走	
		□6月 針葉樹会報バックナンバー合本製作	
		※戦後復刊1～100号3分冊を如水会館図書室、日本山岳会、国立部室に献本	
85	2006	[2006年度]部員はコンスタンチン・チェルニシェフスキー(3年)1人	

通年	年	事項・出来事	文献
	(平成18)	山行なし	
		【針葉樹会】	
		◎9.30~10.1 北アルプス・称名川 称名大滝 山田(秀)ほか1名(部外)	1
		※日本山岳会青年部パーティ(山田(秀)、[太田孝介])	
		※全4段を1回で通し登攀した第2登	
86	2007	[2007年度]部員はコンスタンチン・チェルニシェヴスキー(4年)1人	
	(平成19)	○6.16 高原川沢上谷 コンスタンチンほか2名(部外)	
		【針葉樹会】	
		☆3.29 中村保会員がアメリカ山岳会の名誉会員に推挙される。	1
		※評価の対象:東チベット未踏域のパイオニア・ワーク	
		日本人として楨有恒以来2人目	
87	2008	☆茶道部の師匠である佐藤 力会員(昭40卒)の勧誘で茶道部員が7名入部	
	(平成20)	○7.13 新人歓迎懇親山行 高尾山(学生:原口翔伍ほか5名、OB11名)	1
		【針葉樹会】	
		□5月 中村保『Die Alpen Tibets』ドイツDetjen-Verlag (ドイツ語版「チベットのアルプス」) 出版	2
		☆6.2 中村 保会員(昭33卒)が王立地理学協会からメダル受賞	2
		※Busk Medal2008、日本人で初	
		☆8.1 一橋山岳会ホームページ開設	3
		※開設委員:小島和人 岡田健志 中村雅明 金子晴彦 井草長雄	
88	2009	○6.20 新人歓迎山行 三ツ峠(学生:糟谷知紀ほか3名、OB:7名)	1
	(平成21)		
		【針葉樹会】	
		◎1.17 西伊豆・雲見崎烏帽子岩「時人参上(仮称)」無雪期初登 山田(秀)ほか1名(部外)	2
		※山登魂パーティー(山田(秀)、渡辺剛士)	
		◎2.28 伊豆・千貫門「如月八番地(仮称)」無雪期初登 山田(秀)ほか2名(部外)	3
		※山登魂パーティー(山田(秀)、鈴木仮狩、佐藤益弘)	
		▲3.21 近藤 泰(昭53卒)会員が妙高山で遭難死	4
		☆5.16 針葉樹文庫見学会(開設式) 於南アルプス芦安山岳館	5
		※開設委員:上原利夫 倉知 敬 竹中 彰 蛭川隆夫(主担)	
		□5.16 『針葉樹文庫解題』発行(編集:蛭川隆夫)	
		☆6.24 針葉樹会総会にて中村 保会員(昭33卒)を表彰	
		▲7.23 山崎 擴(昭23卒)会員が相模川で遭難死	6
		☆9.26 中村 保会員(昭33卒)が第4回日本スポーツグランプリ受賞	
		□11.28 『針葉樹会報』第116号 -- 近藤泰氏 追悼特集 -- 発行	
		☆12.6 中村 保会員(昭33卒)が日本山岳会の名誉会員に推挙され、会長特別表彰される。	7
89	2010		
	(平成22)	【針葉樹会】	
		☆9.26 中村 保会員(昭33卒)がスポーツグランプリ受賞	1
		※第64回国民体育大会の開催地・新潟で。山岳部門の受賞は今回が初めて。	
		☆10.18 針葉樹会が南アルプス市から功績者表彰を受ける。	2
		※「南アルプス芦安山岳館」に「針葉樹文庫」の形で642冊の山岳図書を寄贈による	
		□10.28 『針葉樹会報』第119号 -- ●特集● 一橋山岳部の軌跡 -- 発行 (倉知 敬)	
		※小谷部全助全山行記録所収	
		☆11.20 中村 保会員(昭33卒)がポーランドから、国際探検家賞を受賞、ポーランド山岳会の名誉会員の認証を受ける。	3
90	2011	○8.19~21 北アルプス(徳沢から蝶ヶ岳往復) 米田卓也ほか3名、OB3名	1
	(平成23)		
		【針葉樹会】	
		☆5.20 中村 保会員(昭33卒)がニュージーランド山岳会の名誉会員の認証を受ける。	2
		☆6.23 針葉樹会会則改定(平成22年度針葉樹会 総会にて決議)	3
		※会費関係	
		○10.18~11.14 「アンナプルナー周トレッキング」	4
		※佐藤 久尚(昭41卒)、岡田 健志(昭42卒)、中村雅明(昭43卒)	

通年	年	事項・出来事	文献
91	2012	[2012年度]	
	(平成24)	○8.5～6 公募一橋大学生との富士登山ー山岳部90周年記念企画	1
		「参加者」 針葉樹会員:8名ほか1名 山岳部員:5名 一般学生:11名	
		「推進役」 宮武 幸久(昭45卒)	2
		【針葉樹会】	
		☆3.30 針葉樹会臨時総会 ー創部90周年記念事業提案の件ー	3
		※創部90周年記念事業承認	
		①針葉樹第15号発行	
		②富士登山	
		③夜叉神峠周辺の登山道整備	
		□4.19 中村保『最後の辺境ーチベットのアルプス』東京新聞 出版	
		※「ヒマラヤの東」第4弾総集編	
		☆6.21 平成23年度針葉樹会総会 ー大正11年6月21日の一橋山岳会発会の記年日に開催ー	4
		※規約の改定(評議員会の廃止、相談役の新設等)	
		○9.13～10.08 インド ヒマチャルプラディシュ・ヒマラヤの旅	5
		※佐藤 久尚(昭41卒) 中村 雅明(昭43卒)	
		1)9.13～9.29 トレッキング(ホワイトセールを南から北へほぼ半周の3君慰霊の旅)	
		2)10.1～10.7 ローカルバスの旅(マナリ～シムラ～デリー)	
		3)9.17、10.8 学生の遺体捜索協力要請	
		○秋 中村 保 未踏の岩峰、禁断の山塊 ー四川西部高地2012秋ー	6
		○11.27 「夜叉神峠周回路の記念山行	7
		「参加者」 針葉樹会員:上原 利夫(昭33卒)以下16名 学生「小宮山 尚与志(商3)以下2名	
		※芦安ファンクラブ、富士通アイ・ネットワークシステムズと合同	
		□12.12 『針葉樹』第15号(創部90周年記念号) 発行	
		※編集委員:岡田 健志(昭42卒)、中村 雅明(昭43卒)	
92	2013	[2013年度]	
	(平成25)	○10.13 「FN短大開校記念山行 石割山」	1
		※急激な部員増加に対応し、藤原(F:s44卒)、中村(N:s43卒)会員が山岳部員の基礎	
		技術習得・体力向上を目的とした山行を企画した。2015年5月までに42回された。	
		○10.18～19 「廻り目平」学生OB合同合宿	2
		「参加者」 学生:長島 弘賢(商3)以下4名 針葉樹会員:8名ほか2名	
		※19日の懇親会で菊田 果琳部員(国立音大2)が演奏・録音した「山讃賦」のピアノ演奏が	3
		初披露された。	
		【針葉樹会】	
		○2.18～25 キナバル山 佐藤 恭(昭31卒) 蛭川 隆夫(昭39卒) 小島 和人(昭40卒) 外部1名	4
		☆5 中村 保会員(昭33卒)が第2回「梅棹忠夫・山と探検文学賞」受賞	5
		※受賞の対象:「最後の辺境 チベットのアルプス」	
		○9.9～23 インド ザンスカールヒマラヤの旅 佐藤 久尚(昭41卒) 中村 雅明(昭43卒)	6
		○秋 中村 保 南チベット 2013秋 ー悔恨と反省の踏査行ー	7
93	2014	[2014年度]	
	(平成26)	○8.24～25 富士山御来光ツアー(第2回)	1
		「参加者」 針葉樹会員:4名 山岳部員:9名 一般学生:8名	
		□12 山岳月刊誌『PEAKS』2014年12月号に一橋山岳部の記事が掲載される。	2
		【針葉樹会】	
		☆71 一橋大学で富士山講習会を開催 於:東館1201教室	3
		※第2回の富士登山を実施するに当たり、学内での山岳部認知度向上とより富士さんを理解して	
		もらうことを目的に実施。講師:佐藤 恭会員(昭31卒) 企画:宮武 幸久会員(昭45卒)	
		参加者:42名(針葉樹会員19名、外部者数名、他は学生)	
		○8.21～9.1 ツール・デュ・モンブラン・トレッキング 小野 肇(昭40卒)	4
		※地元の山岳ガイド社の計画に参加。	
		○9.5～10.3 カラコルムのトレッキングと天山南路バスの旅	5
		※佐藤 久尚(昭41卒)、岡田 健志(昭42卒)、中村雅明(昭43卒)	
		☆10.18 中村 保会員(昭33卒)が国際山岳連盟(YIAA)の名誉会員に選出される。	6
		☆11.15～16 高谷山周辺の登山道修復作業	7

通年	年	事項・出来事	文献
		※芦安ファンクラブ6名、富士通アイ・ネットワークシステムズ15名と合同	
94	2015 (平成27)	○2.13~3.3 キリマンジャロ山行 安藤 桂吾(経4) 高橋 直道(法3) ※マチャメ・ルートからテント泊で最高峰ウフルピーク登頂 [2015年度]	1
		○5.30~31 ハケ岳スーパートレイル(FN短大最終山行) ※5.30 編笠山(OB1、学生4) 飯盛山(OB1、学生7) 藤原山荘泊(OB2、学生11) ※5.31 ハケ岳赤岳・県界尾根合同(OB6、学生11) 美しの森で「FN短大終了宣言」	2
		○8.18~20 北岳夏合宿(2泊3日班) 上 茂樹(法3)ほか5名	3
		○8.18~19 北岳夏合宿(1泊2日班) 太田 貴之(商4)ほか2名	4
		【針葉樹会】	
		☆121 平成26年度新年会・臨時総会 ＜＜議題＞＞国立部室外壁の再塗装 25円を上限として追加予算に計上・支出すること承認	5
		☆☆1.24 国立キャンパス部室外壁塗装 「参加者」針葉樹会員:7名 山岳部員:5名	6
		○326~4.4 アンナプルナ街道トレッキング 小野 肇(昭40卒) 会社同期の友人と2人	7
		☆☆5.26 国立キャンパス部室外壁丸太補修 玄関口の屋根と、本体屋根の接合部の木材の腐食箇所の丸太取り換え後、塗装仕上げ	8
		○827~9.14 スイスアルプス ハイキング三昧 佐藤 久尚(昭41卒)	9
		○928~30 北岳バットレス第四尾根への最終挑戦 竹中 彰(昭39卒) 藤原 朋信(昭44卒) 金子 晴彦(昭46卒)	10
95	2016 (平成28)	[2016年度]	
		○5.28~29 ハケ岳縦走 内海 拓人(法3)ほか7名	1
		○8.316~19 夏合宿 常念山脈縦走 内海ほか6名	2
		【針葉樹会】	
		□1.30 中村保『ヒマヤラの東 山岳地図帳 チベットのアルプスとその彼方』ナカニシヤ出版 発行	3
		☆5.28~29 夜叉神峠・高谷山周辺の登山道整備 「参加者」針葉樹会員:小島以下9名 ※芦安ファンクラブ、富士通アイ・ネットワークシステムズと合同	4
		☆7.12 竹中 彰会員(昭39卒)針葉樹会会長退任、小島和人会員(昭40卒)会長就任	5
		○9.20~30 キリマンジャロ登頂 佐藤 久尚(昭41卒) 岡田 健志(昭42卒) 中村 雅明(昭43卒)	6
		☆11.4 中村 保会員(昭33卒)が『アジア黄金のピッケル賞』受賞	7
96	2017 (平成29)	○7.24~27 夏合宿@北岳・間ノ岳 内海 拓人(法4)ほか11名	1
		○8.3~7 夏合宿 北アルプス 雲ノ平合宿 内海ほか7名	2
		【針葉樹会】	
		○6.18~26 プレネートレッキング 小野 肇(昭40卒)ほか外部1名	3
		☆8 佐藤 周一会員(昭53卒)が山岳部専任アドバイザーに就任(7.10の針葉樹会総会で決議)	4
		☆10.6 中村 保会員(昭33卒)が文科省スポーツ庁所管の「生涯スポーツ功労者表彰」を受賞 ※日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)の推薦によるもの	5
		○10.20~11.02 アンナプルナサーキット・半周トレッキング 兵藤 元史(昭52卒)ほか外部2名	6
		○11.18 六甲山(初めての針葉樹会関西懇親山行) 佐藤 恭(昭31卒)ほか7名、外部3名	7
		▲12.23 宮武 幸久会員(昭45卒)が坪山で遭難死	8
97	2018 (平成30)	○2.18~20 蝶ヶ岳 内海 拓人(法4)ほか2名、OB1名 [2018年度]	1
		○7.30~31 夏合宿 常念岳・蝶ヶ岳 安藤 由都(法4)ほか9名	2
		【針葉樹会】	
		☆2.10 故宮武幸久会員のお別れの会が執り行われ、その後献杯の席開催 お別れの会:鎌ヶ谷セレモ鎌ヶ谷ホールにて、会員33名、学生11名参列 献杯の席:鎌ヶ谷駅東口「庄や」にて 会員31名、学生11名出席	3
		☆7.7(土) 平成29年度針葉樹会総会 ※於:TKP九段下神保町ビジネスセンター貸会議室 12:00~14:30 ※現役世代が出席しやすいように場所・会場を貸会議室とし、時間帯を工夫した。	4

通年	年	事項・出来事	文献
98	2019 (令和01)	○1.24~27 甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳 松橋 凛太郎(法3)ほか2名	1
		[2019年度]	
		○8.3~8 夏合宿 南アルプス中南部縦走 田中 亨(商4)ほか9名	2
		【針葉樹会】	
		☆5.5 芦安ファンクラブ創立20周年記念式典にて針葉樹会に感謝状が授与された。	3
99	2020 (令和02)	□6.14 中村保 『空撮ヒマラヤ越え 山座同定』 ナカニシヤ出版 出版	
		○8.31~9.17 ホワイトセール追悼の旅 一三君の足跡を辿ってー 前神直樹(昭51卒)以下7名	4
		○9.17~27 ガルワールトレッキング山行 前神 直樹(昭51卒) ガイド1名、ポーター2名	5
		○1.18~19 那須・茶臼岳 松橋ほか2名	1
		☆3 学生支援課より新型コロナウイルス感染症流行の影響で課外活動の中止・延期対応が求められた。 ※そのため宿泊を伴う定期山行や大学構内で行う日常のトレーニングが制限され、少人数の日帰り登山についても山行中や公共交通機関利用時に感染の恐れがあるためすべて中止し、ランニングや筋トレを個人で行うことを余儀なくされた。3月から10月にかけて山行実施できず。 ※10月に入った段階で大学側から週1回のみでの活動再開が許可されたので、10月から12月にかけて日帰り山行に限って実施した(11回)。10月から行った日帰り山行を実質的な新歓山行と位置づけた。	2 3
99	2020 (令和02)	【針葉樹会】	
		○2.19~24 キナバル山 佐藤 久尚(昭41卒)、岡田 健志(昭42卒)、中村雅明(昭43卒)	4
		[2020年度]	
		☆ 新型コロナウイルス感染症流行への対応 ①「学生幹事と山岳部員との定例会」、「三月会」は中止 ②5月~6月に実施予定の「三四郎会(南会津木賊温泉泊、長卸山行き)は中止 ③懇親山行(御神楽岳)、芦安周辺の登山道整備は延期	5
		☆7.9 2019年度針葉樹会総会(新型コロナウイルス感染禍対応) ①出席は小島会報ほか最小限5名の幹事、学生は川原ほか1名 ②会員には、総会議案の書面での議決権行使か、または委任状による議長一任を諮る。 ③会員には出席に代えて、オンラインで総会を傍聴できる対応をとる。 オンライン参加:市原ほか6名	6
100	2021 (令和03)	☆12.21 オンライン三月会 会員7名、学生1名	7
		☆1 東京都の緊急事態宣言に基づき、大学側から全面活動休止の指示が出た為、3月まで山行が実施できず、各自自宅でのトレーニングを行うのみ ※オンラインでの新歓活動実施	1
		○9.7~8 尾瀬 川原 の乃(社4)ほか3名	2
		【針葉樹会】	
		□6.14 中村保 『未踏峰と三江併流ーヒマラヤの東 最後の辺境ー』 ナカニシヤ出版 出版 ☆7.9 小島 和人会員(昭40卒)針葉樹会会長退任、前神 直樹会員(昭51卒)会長就任	3
101	2022 (令和04)	【針葉樹会】	
		☆1.21 針葉樹会臨時総会兼新年会 「会場出席者」会員17名、学生3名 「オンライン参加者」会員8名、顧問1名、学生1名、 ※一橋山岳部創部100周年記念事業特別予算承認 ①創部100周年記念誌”写真で見る山岳部の100年”の制作発行 ②部誌「針葉樹」OB会誌「針葉樹会報」の総デジタル化 ③創部100周年記念山行”北岳” ④創部100周年記念”拡大月見の宴” ※昨年就任された山岳部顧問の小西先生を針葉樹会の特別会員に承認	1

通年	年	事項・出来事	文献
----	---	--------	----

【資料1】 予科生代の個人山行 澁谷一郎(昭28卒)

(編集子注) これらの4つの記録は『針葉樹』第11号がカバーする範囲であるが漏れている。

当時の予科生の山行を知る上で貴重である。

- (1) 昭和22年5月下旬 新入部員歓迎(甲斐駒)
笠原広信(リーダー): 中村正司、原田一郎、澁谷一郎
- (2) 昭和22年10月中旬 大町→葛温泉→槍の東鎌尾根→槍ヶ岳→徳澤→上高地
小川宣美(リーダー): 澁谷一郎
- (3) 昭和22年10月下旬 大町→爺ヶ岳→鹿島槍ヶ岳→キテット→五竜岳→唐松岳→信濃四谷
小泉三好(リーダー): 荒砥通虎、澁谷一郎
- (4) 昭和24年6月上旬 土合→西黒尾根→ロバに耳→蓬沢の頭まで縦走
荒砥通虎、澁谷一郎

【資料2】 昭和40年カラコルム・ヒンズークシュ遠征覚書 丸子博之(昭35卒)

(編集子注) 筆者は1965年に行われたカラコルム遠征の隊員の一人。同遠征の記録は針葉樹第14号に短く記載されているので書き残したことも多い。本稿は正確な記録として残すべく、筆者が当時の遠征背景、針葉樹会としての企図、劇的な顛末を伝えたいと思い纏めたもの。

調査隊三名出発約一カ月前から、印パ関係は急速に悪化、一触即発の極度に緊迫した状況となり、7月22日カラチ到着、直ちにカラコルム入山許可を取得すべく、日本大使館・三井物産カラチ支店の全面協力を得て、パ政府省庁を駆け回り、交渉したが、既に全土非常事態宣言下にあり、パキスタン政府、国民は対印戦争勃発を覚悟、防戦体制造りに総力を挙げており、外国登山隊の入山許可申請など全く相手にされず絶望的。しかもカラコルム周辺は長年に亘る印パ係争地帯。大使館・物産の情報、アドババイスもあり、甘利隊長はかかる時期にカラチに止まる事は無意味且つ危険と判断、已む無くヒンズークシュ転進を決断した。

マルビティン初め、夢に見たカラコルムの探査は挫折したが、当時中央ヒンズークシュきつての難峰と称された「ミール・サミール」峰登頂に成功したことはせめてもの救いであった。同峰は勿論調査隊の遠征準備期間、出発時全く関係者の念頭に無く、戦争直前下における甘利隊長の苦渋の選択、決断であったと思う。

我々登頂成功直後、9月6日遂に印パ戦争勃発。印度空軍によるカラチ空爆が開始された。連日の猛爆の報に接した日本政府は在パ日本人全員の即時退去を指示、カラチに集結した邦人はJALの特別機で帰国。羽田で報道陣に囲まれ、一橋大学遠征隊長談が”このこの目を見た印パ紛争”等のヘッドライン、髭面の逞しい写真と共に翌日の各紙朝刊一面に大きく報じられたことは記憶に新しい。

ヒンズークシュは当時としては未だ処女地、魅力溢れる秘境であった。「ミール・サミール」峰は6,000m峰、(6,210m)第二登にすぎず(新ルート初登)、昭和36年の「アンデス遠征」の輝かしい成果には比ぶべくも無いが一橋山岳部にとり、数少ない海外遠征実績であり、2年後の「東部ヒンズークシュ遠征隊」の目覚ましい登攀記録(三座初登頂)の布石になったと位置付けられるのではないか。日本隊としては、同年名古屋大山岳部がヒンズークシュ遠征隊を派遣した以外さしたる遠征は見られず、欧州山岳会が注目し始めた時代。甘利さんは隊長として、調査隊が初期の目的を達し得なかった事に終生自責と無念の思いを持ち続けた。しかしてぶらで帰国してもおかしくない非常事態、6,000m峰ながら中央ヒンズークシュ最難と目されていた岩峰、時間と地域の制約、装備・食糧は貧弱なミニ遠征隊(調査隊)が、頼りになる資料・地図もない状況でこの山を選び、登頂できたのはさすが甘利隊長、同先輩の知見と経験の賜物である。

この結果は世界情勢の急激な変化に遠征隊が翻弄された一例であり、ハインリッヒ・ハラー著「チベットの7年」に描かれた独傭合同ナンガパルバート登山隊ほどではないが奇しくも類似している。、本稿筆者商社に身を置きながら、印パ情勢に疎かったことの不明を恥じ、その後40年の国内外の現役人生において、正確な情報収集、その分析、展開予測の重要性を常に意識し、行動規範としてきました。印パ戦争勃発後、パキスタン、アフガニスタンは全て国境閉鎖、通信・交通途絶。カブールに止まって政府相手の遠征手仕舞い処理、遠征荷物発送手続きをしていた丸子はカラチはもとより、東京とも全く連絡がとれず、「行方不明」扱い。戦争開始二週間後カブール脱出、9月末にベイルート、カイロを経てロンドンから帰国。佐藤はヒッチハイクで甘利隊長に数日遅れて、カラチに着いたが、強制送還は好まず、流浪の旅へ。中央アジア諸国を徘徊した後、ケルン大学で言語学を修め、講師の職を得てドイツに定住、日本にはほとんど帰っていない。

一橋山岳部はアフガンと縁が深い。二つの遠征隊がヒンズークシュに向かった。我々が通ったカブール北部の小村フルンジュはアルガンに英雄スマート将軍が率いた「北部同盟」に本拠地。貧しくも誇り高う

通年	年	事項・出来事	文献
----	---	--------	----

村人達が、羊を放牧し、川沿いの急斜面に小麦を育て、静かに生きてきた。悠久の大地アフガンが、1978年のソ連侵攻以来戦火に包まれている。平和が戻る事を願うばかりだ。隊員三人はカブール滞在中、月光を背に馬車を引いてプラタナスの街路路をとことこ走るロバの足跡と鈴の背に聞き惚れ、中央アジアの持つ得体のしれない魔力に引き込まれた。その小さな鈴の音がいまだに心の奥底から聞こえてくる、